

わたしの修習時代

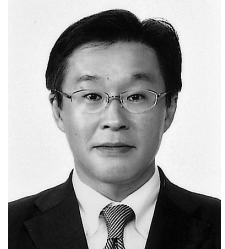
紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

41期

昭和から平成へ 「人」に恵まれ、楽しかった思い出



会員 志賀 剛一（41期）

前期修習

昭和62年4月、私は新宿の三峰で買った一張羅のスーツを着て、湯島の司法研修所の門をくぐった*1。前期修習では「ワープロ」なる利器を操る修習生が出始めていた。程なくして、クラスを跨いで全く同一のワープロ起案が出現するという重大事件が起きた。ある教官がこれを「実行正犯」と呼んで揶揄した*2。

弁護修習

実務修習は名古屋に配属された。第1クールは弁護修習であった。開始式から4ヶ月間、毎日、昼も夜も指導担当のY先生とご一緒させていただいた。先生からは「君みたいなのを『新人類』と言うのかなあ」と呆れられながら、昼間は本当に厳しく指導を受けた。夜は夜で、居酒屋のイッキ飲みしか知らなかった私に「酒」の飲み方を教えてくださった。法曹の先輩の魂を肌で感じた4ヶ月間だった。20年以上経った今も、毎年必ずお会いしている。

裁判修習

裁判修習に入ると、急に食事の質が落ち（普通になり？）、帰宅時間も早くなったが、裁判官の仕事が意外と魅力的に映り、今考えれば恐ろしいことだが、任官を考えたこともした。幻想から醒め、就職活動らしきことを始めたのは2年目の夏頃であった。昭和63年、不動産は高騰し、我々は一生持ち家を持たないものとする諦めていたが、その代わり、就職には今の時代ほどの苦労はなかった。東京の事務所に入れていただき、弁護士になることにした。

検察修習

最終クールは検察修習であったが、個人的にはこれが一番面白かった。修習生3人でチームを組み、殺人の否認事件を担当させてもらい、起訴までの間は、見学旅行中も我々だけ日帰りして捜査にあたったこともあった。すでに事務所が内定していたが、検察からも強くお誘いをいただいた*3。本当に最後の最後まで迷ったが、弁護士の道を選び、今日に至っている。

後期修習 — 昭和から平成へ —

名古屋を離れる直前、私の愛する中日ドラゴンズがリーグ優勝を果たしたが、「自粛ムード」の中で、ビールかけは行われなかった。後期修習で東京へ戻った後、年が明けてわずか7日間で「昭和」が終わった。松戸の馬橋にあった寮*4の近くの理髪店のテレビで新元号が「平成」になることを知った。二回試験に対する危機感は持っていたが、寮の舎監さんの部屋に「有志」が集い、毎晩酒を飲んでいた。それでも何とか合格し*5、弁護士になった。

あれから20年…私の修習時代は「人」に恵まれ、楽しかった思い出しかない。縁あって、この春から司法研修所の民事弁護教官になった*6。修習時代に諸先輩から受けたご恩の何分の1かでもお返ししたいと思っている。

*1：国鉄が民営化されてJRになったのと同時期である。

*2：当時のワープロには「実行」というキーがあり、それを押すと文書が印刷された。

*3：自慢話ではない。若手会員には信じ難いことであろうが、同期の任検者は、戦後最低から2番目か3番目の人数であるので、念のため。

*4：今のいずみ寮とは異なり、壁が薄くて防音性はほぼ皆無、風呂・トイレも当然、共同であった。

*5：結局、全員合格であった。

*6：そういうわけで、あまり面白くない話しか書けないのである。